



日本共産党
市議会議員団
週刊議会報告
【発行】
岡野長寿
(0845-22-2596)
三浦とおる
(0848-48-5044)

久保・長江・土堂小学校の統廃合の問題

-地域・保護者の合意なき統廃合は絶対反対-

12月議会が、12月2日より始まり、12月6日(金)の11時、日本共産党市議会議員団の一般質問がありました。三浦市議は、新聞を賑やかにさせている「久保・長江・土堂小学校の統廃合問題」を取り上げます。岡野市議は「中学校の全員の給食の実施計画について、格差社会、貧困対策について」について質問してまいります。本日の尾道民報では、「三浦市議の学校統廃合問題について一般質問の要点を掲載します。」

土堂・長江小学校とともに説明会で保護者は反対

今回の「久保・長江・土堂小学校3校の統廃合計画案」が明らかになってから、対象の各学校では様々な要望の声が上がっています。土堂小学校の育友会は統廃合計画案に反対の態度を明らかにするとともに、保護者を対象にアンケート調査を行い、その中の「令和3年3月末で土堂小学校を廃校として、在籍児童は栗原小学校へ栗原小学校児童として転校することに賛成か」との問いに対する結果が賛成12、反対199、その他、9となっています。

さらに、11月15日に行われた市教委の保護者を対象にした「説明会」では市教委の計画に異論が続出し、午後7時から11時40分までという長時間行われ、合意が得られず平行線が続いています。

何が危ないのか？計画案は統合ありき前提？

市教育委員会は、統廃合の理由として、校舎の耐震性能が低いことと土砂災害警戒区域にあることを一緒にして「危ない」の一点張りです。教育委員会の見解では、①校舎の耐震性が低いこと、②土

消えた横断歩道復活！

—岡野長寿市議活動記録—

尾道市議団が辻つねお県会議員と連携して…

写真は向島兼吉の住田パン前の交差点。横断歩道の白線が消えて危ない」との声が出ていました。岡野市議は今年6月議会の総務委員会

で、各地で横断歩道の白線が消えている問題を取り上げ、県任せにせず、市がマップをつくって塗り直しを促進するように求めています。

同市議は昨年9月議会文教委員会でも、栗原小学校の児童がはねられた事故に関連して、事故現場の横断歩道や停止線、◇の横断歩道予告表示が消えた問題を取り上げ、県に早急な対応を求めています。

辻県議が、9月議会で横断歩道の塗り直し基準を改善するよう求めたことも追い風になりました。



児童の命を守る耐震化工事を

校舎の耐震化については、共産党尾道市議団は以前から「他市より遅れている校舎の耐震化を急ぐよう」と求めてきました。しかし、市内の小学校の多くで耐震化が進む中で、久保・長江・土堂小学校においては行われなかった経緯があります。「地震」は「台風や豪雨」と違って、予測は不可能です。台風・豪雨は予報である程度、危険回避の行動をとることができます。それに比べて、地震の場合は予測不可能な危険回避の行動をとることは困難であります。今回の3小学校の統廃合の大きな要因である「児童の命を守る」ということを確保するためには、教育委員会が言うように倒壊の危険のある校舎の「耐震化工事」こそ一刻も早く行う必要があるのではないのでしょうか。耐震化工事を3校でどのように検討をしていたのが問題になります。

この計画案では「転校を2回も行う計画になっている」ところに大きな問題があります。久保・長江・土堂小学校、3校の統廃合の計画案では、安全対策の一つとして、児童の早期の安全・安心を確保するため、2022年4月から最寄りの小学校への応急避難(転校)となつていきます。土堂・長江小学校は新校舎ができません。栗原小学校は山波小学校に転校、と計画されています。そして、2024年に新校舎ができれば、

また転校。低学年・中学年の児童は2回の転校をしなければなりません。転校に伴って新しい学校環境の中で、新しい学校環境の中で、環境に慣れながら新しい環境に慣れながら必要はありません。児童の中には新しい環境に馴染めない子どももいると思えます。過度の負担やストレスを感じる児童もいるのではないのでしょうか。こうした状況の中で、不登校になつたり、いじめが発生する可能性も考えられます。このような児童に対する教育の配慮は計画案では示されていません。教育的配慮を質します。